

① 監査法人の品質管理	監査法人の品質管理状況は適正か。	<ul style="list-style-type: none"> 品質管理に関し、社内手続き・方針が定められており、社内責任体制が明確か。 職業倫理の遵守に関し、保持・実施すべく方針・手続きが定められ、教育がなされているか。 監査実施責任者その他対象者の定期的なローテーションを行っているか。
	期日・作業スケジュール、社内審査会の実施状況は適正か。	<ul style="list-style-type: none"> 社内審査を含め決算基準に準じた期日の厳守がなされ、適正に審査を行っているか。 期日遵守を理由に作業内容に過不足が生じていないか。 責任者一担当者間で意見の集約・調整が行われているか。
	監査法人から、日本公認会計士協会による品質管理レビュー結果及び公認会計士・監査審査会による検査結果を聴取した結果、問題はないか。	<ul style="list-style-type: none"> 当該審査会の検査及びレビュー実施結果について説明があるか。 レビュー内容の説明及び改善勧告・指摘事項の説明並びに対応状況の説明は合理的かつ相当か。
② 監査チーム	監査チームは正当な注意を払い、独立性・懐疑心を保持・発揮しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 客観的かつ先入観の無い視点で監査を実施しているか。 経営者あるいは執行側幹部の意図を忖度しすぎているか。
	監査チームは事業内容を理解した適切なメンバー(人数、経験、知識、能力)により構成されているか。	<ul style="list-style-type: none"> メンバーは必要な能力を備えているか(事業内容の理解、リスク要点の認識、提案)。 チームワーク・作業連携・作業分担は適正か。
	適切な監査計画(実施内容、リスク管理、重点ポイント)を策定し、実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 業務・リスクポイント・課題・重要度を理解の上、適切な作業配分をし、計画通りに作業を実施しているか。 前期との相違を勘案の上、適切な作業の加除、提案を行っているか。 期中に発生した変更点については、適宜連携の上見直しを図っているか。
③ 監査報酬等	監査報酬(報酬単価及び監査時間を含む。)の水準及び非監査報酬がある場合はその内容・水準は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> 報酬単価・監査時間は、企業規模・業務内容に鑑みリスク水準に比較し適正か。
	監査内容・計画の適正を前提に、単価・工数・非監査作業等が見積もられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 前期からの変動・構成メンバーの変更等を踏まえ適正か。 監査の有効性と効率性に配慮されているか。
	新たな監査項目・定例の監査項目に対する単価・工数等の見積りは適正か。	<ul style="list-style-type: none"> 監査内容・計画の適正性に関する説明があったか。
④ 監査役等とのコミュニケーション	監査実施の責任者及び現場責任者は監査役及び監査役会と有効なコミュニケーションを行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 近年の一般的動向、企業への影響度さらには監査実施上の留意点等情報提供があるか。 四半期レビュー等定期的に書面による報告・意見交換を行っているか。 不正リスクを含む特別な事象等発生した場合、定例に限らず適宜報告を行っているか。
	監査役及び監査役会からの質問、要望、相談事項、指摘事項への対応は適時かつ適切か。	<ul style="list-style-type: none"> 監査役及び監査役会からの質問、要望、相談、指摘に対し、真摯に受け止め、回答しているか。 監査役及び監査役会からの要望事項を積極的に取り入れ、改善を行っているか。
	報告資料の体裁、報告は分かり易く作成されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 報告資料は分かり易く作成されているか。 過年度との比較や違いが容易に分かるように作成されているか。
⑤ 経営者等との関係	監査実施の責任者及び現場責任者は経営者及び執行側幹部と有効なコミュニケーションを行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 経営者及び執行側幹部の考えを理解しているか。 経営者及び執行側幹部と定期的に意見交換・話し合いを行っているか。 経営者及び執行側幹部に認識している課題を伝えているか。
	監査実施の責任者及び現場責任者は内部監査部門等(内部統制室、内部監査室)、経理・財務部門、各現場と有効なコミュニケーションを行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 内部監査部門・会計管理部門と必要な意見交換・話し合いをしているか。 内部監査部門・会計管理部門へ課題の指摘、提案を行っているか。 各現場から適宜・適切な資料等の提供依頼及び取得ができる関係を構築しているか。
	内部統制監査範囲・対象を的確に把握しているか。	<ul style="list-style-type: none"> グループ企業を含め正確に業務内容を把握し、内部統制上の観点を理解しているか。 評価の実施・検証において内部統制部門、品質管理部門等との作業連携・役割分担・情報共有は十分にとれているか。
	資料徴取は適切か(監査に資する資料の徴求、リスクを想定した資料の徴求、サンプリング等の的確性)。	<ul style="list-style-type: none"> 必要な資料の選定及び提供依頼を行っているか。 必要以上の依頼で現場負担を徒に重くしていないか。
⑥ グループ監査	関係会社ごとの監査基準及び監査方法は的確か。	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社各社のグループ内における重要性、役割を認識の上、リスクに応じた監査を行っているか。 連結決算スケジュールをもとに適切な指示・対応を行っているか。
	リスク管理及び課題管理は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社規模、特性に応じたリスク評価を行っているか。 直接監査を行う場合、関係会社担当者や適切なやり取りや要請を行っているか。
	往査、訪問頻度は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社規模、リスク内容に応じ、往査必要の有無、実施頻度等を考慮して行っているか。
	特に海外における不正リスクが増大していることに鑑み、海外関係会社の監査人と十分なコミュニケーションが取られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークファーム若しくは現地監査人と十分な意思疎通を行っているか。 国ごとのギャップを理解し、必要な作業に対する適切な作業指示を行っているか。
⑦ 不正リスク	監査法人の品質管理体制において不正リスクに十分な配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 不正リスクに対する対応教育がなされているか。 リスク兆候、監督方針に関する内部手続き、検証体制が整っているか。
	監査チームは監査計画策定に際し、会社の事業内容や管理体制等を勘案して不正リスクを適切に評価し、当該監査計画が適切に実行されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 不正リスクに関する懐疑の見方を常に有しているか。